

改訂版はしがき

本書は、アメリカで広く用いられている Infant and Toddler Environment Rating Scale—Revised Edition (=略称 ITERS-R) <直訳；乳児とよちよち歩き児の環境測定尺度 改訂版>の全訳文および日本での使用にあたっての解説から構成されています。

ITERS [イターズ] は、そのきょうだい版ともいえる 2 歳半から 5 歳の幼児の保育環境の質の測定に用いられる ECERS [エカース] =Early Childhood Environment Rating Scale<直訳；幼児環境測定尺度、1980年初版発行>と同じく、ノースカロライナ大学のテルマ・ハームス教授とリチャード・クリフォード教授によって1990年に発行されました。2003年には著者にデヴィ・クレア博士が加わり、改訂版が発行されました。

私は2000年にこれらのスケールと出会い、原著を読み進むうちに、現在の日本の保育でともしれば漠然と情緒的に語られがちな保育の重要な構成要素がきわめて合理的に整理され、明確な概念化が行われていることに、強く魅力を感じました。2002年から2005年にかけて科学研究費補助金を受けてアメリカのノースカロライナ大学フランク・ポーター・グラム (FPG) 子ども発達研究所が主催するショートコースを4度受講し、評定者 assessor としての研修と認定を受けました。コースにはアメリカ全域から保育の指導的立場にある人たちが参加しており、著者による講義では活発に質疑応答が行われていました。また、休憩時間等には参加者間で情報交換が盛んに行われており、その真摯な姿勢に感銘を受けずにいられませんでした。また、その後の保育機関での実習と実習後の綿密な指導を通し、スケールの信頼性と妥当性について多くを学ぶことができました。

現在、わが国の保育所や幼稚園では「評価」が重要なテーマとなってきました。保育所では第三者評価が実施されるとともに、多様な評価ツールが使用され始めています。平成20 (2008) 年改定の保育所保育指針では、保育士あるいは保育所の自己評価の実施が明文化されました。同年には、文部科学省より『幼稚園における学校評価ガイドライン』が発行されています。

このような状況のもと、『保育環境評価スケール』が「評価」ツールのひとつとして、保育の質の向上に資するにあたり大いなる可能性を有していると訳者は信じています。アメリカで開発された評価基準ではありますが、著者によれば、「文化・社会的背景の違いを超えて、乳幼児の保育に必要な普遍的な要素」により構成されています。

2007年より不定期ではありますがスケールの講習会を開いてきました。また、保育園のご厚意を得て、評価実習も実施しています。3時間スケールに沿って保育観察を行うことで、日常的な保育では気づかなかったことに気づき、保育を問い直すきっかけとなるようです。今後、より多くの人の支持を得て当スケールが現場で用いられ、保育の質の向上の一助となることを願ってやみません。

2009年7月

翻訳・解説 埋橋 玲子

謝 辞

これまで何年にもわたり、アメリカ、カナダ、ヨーロッパ、アジアの多くの同僚の存在によって私たちの仕事は豊かなものとなった。これらの国々で研究や保育の質の向上のために ITERS が使われ、同僚たちはその成果を私たちにも惜しみなく与えてくれた。スケール使用者との忌憚らない討論によってより深く考えることができ、それらは非常に有益なものであった。私たちは改訂にあたり多くの質問に答えてくれた人たちに特に感謝したい。すべての助言に目を通し、考えた。その人たちに直接個人的にお礼を言うことはできないが、どれほど私たちに意味あるものであったかをわかってもらいたいと思う。以下、心より感謝したい。

- ・チャペルヒルの統合と多様性問題研究会メンバー；ワンダ・ファーガソン、アデリー・レイ、テレサ・サル、マーティ・ブラウン、タニア・クラウセン、アン・カーヴァー、エミイ・ホ格蘭ド、クウォニヤ・スミス、ベス・ジャハリアス、サラ・ハーヴィッツ、バリル・ウォレイス、ステファニー・リズレイ、ベティ・デ・ピナ、ビッキイ・コール、メリッサ・ミラー、ジゼル・クロウフォード。
- ・フィールド・テストと事後検討を行い重要な指摘をしてくれた観察者；キャシイ・リリイ、リサ・ウォーラー、クリス・フルカーソン、ミーガン・ポーター、キム・ウイントン、リサ・アン・ゴンゾン。
- ・ミーガン・ポーターの非常に有能なフィールド・テストの組織と指揮。
- ・キャシイ・リリイ、リサ・ウォーラー、クリス・フルカーソン、ミーガン・ポーターに対して、細部にわたるフィードバックと、貴重な助言について特別に。
- ・イースン・フェインシルバーとその助手のマリー・ボールドウィンより、原稿作成にあたっての尽力。
- ・ティチャー・カレッジ・プレス編集者、スーザン・リディコートの忍耐と決断。
- ・デイヴィッド・ガードナーによる注意深いフィールド・テストデータの分析。
- ・FPG 子ども発達研究所の研究とチャイルドケア・センターのスタッフの私たちの研究に対する継続的な支援。
- ・保育室での観察を組織するにあたってローリー・ダーラム・チャペルヒル地域のチャイルドケア・センターのスタッフからの理解と協力。
- ・FPG 子ども発達研究所所長、ドン・ベイリー博士からの＜乳児版＞改訂チームへの資金援助。
- ・A.L. メールマン家族基金のルーバ・リンチ常務取締役とフィールド・テストおよびトレーニング・ビデオ作成の資金繰り担当責任者のベティ・バーディジへ、私たちが信頼し仕事の価値を認めてくれたことに対して特別に。

2002年8月

フランク・ポーター・グラム子ども発達研究所
テルマ・ハームス
デビイ・クレア
リチャード・クリフォード